

胆沢ダム 春の融雪水を有効活用し発電量を増やす取組を 試行します ～ 利水者間の連携により実現 ～

胆沢ダムでは、例年、春の融雪によりダム湖に流入する水の一部を、ダム湖の水位が高いために未活用のまま下流へ放流（越流）しています（『白雪の滝』）。

これは、かんがい用水の貯留、水道用水等の供給のため、水位を高くして運用するダム運用ルールとなっているためです。

今回、融雪の前にダム湖水位を特別に低く運用（最大2m）することにより、流入してくる融雪水をダム湖に貯留し、発電量を増やそうとした場合の、効果と影響を検証する取組を試行します。



未活用水の放流『白雪の滝』

毎年およそ1億 m³
(岩手県庁舎 約 1,180 杯分)の
融雪水を未活用のまま下流へ放流
(越流)しています。

1. 試行の実施期間：令和5年2月15日～令和5年4月20日(※1)
2. 試行の方法：上記の期間、現ルールより水位を最大2m低下させて運用

※1：融雪によるダム流入量が増大し、発電等利水放流量以上の流入量となった時点で試行は実質的に終了。

《発表記者会：岩手県政記者クラブ、奥州市政記者クラブ》

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所
〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字四十四田1 電話 019-643-7831

副所長（管理） かたの まさあき
片野 正章 （内線204）

管理第一課長 かまだい たけし
釜台 健 （内線331）

本取組は、国が進めるカーボンニュートラルに向けた取組において、水力発電の価値が高まっていることを踏まえ、これら未活用の貴重な水量の有効活用を目指し、試行を行うものです。

冬期に十分な降雪が有り、湯水の恐れがないことを条件に、融雪期前にダムの水位を低下させポケットをつくることで、未活用水の放流を抑え、発電に活用します。

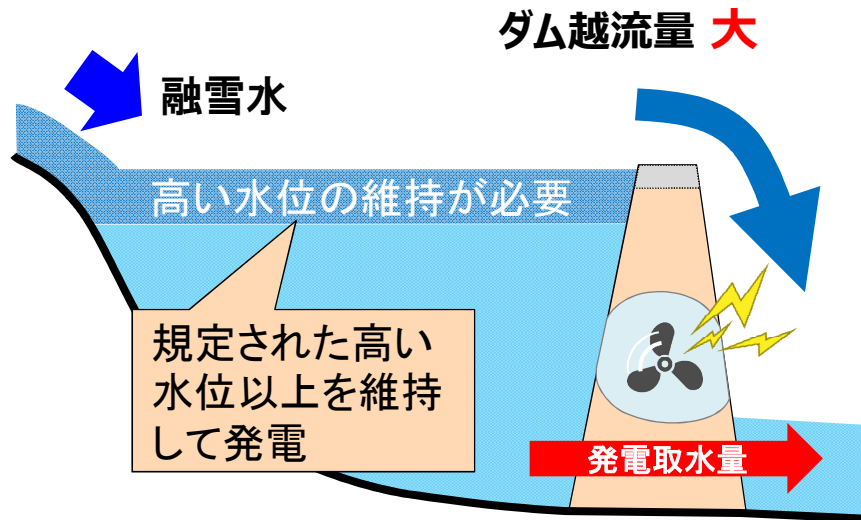
融雪期前に水位を下げて運用することで、急激な融雪による洪水に対しても、下流河川での治水安全度の向上も期待されます。

試行の中では、水道用水の水質への影響や増加する発電量の把握、治水効果の確認、検証などを行います。

利水者とダム管理者で胆沢ダムの水位運用を試行的に変更

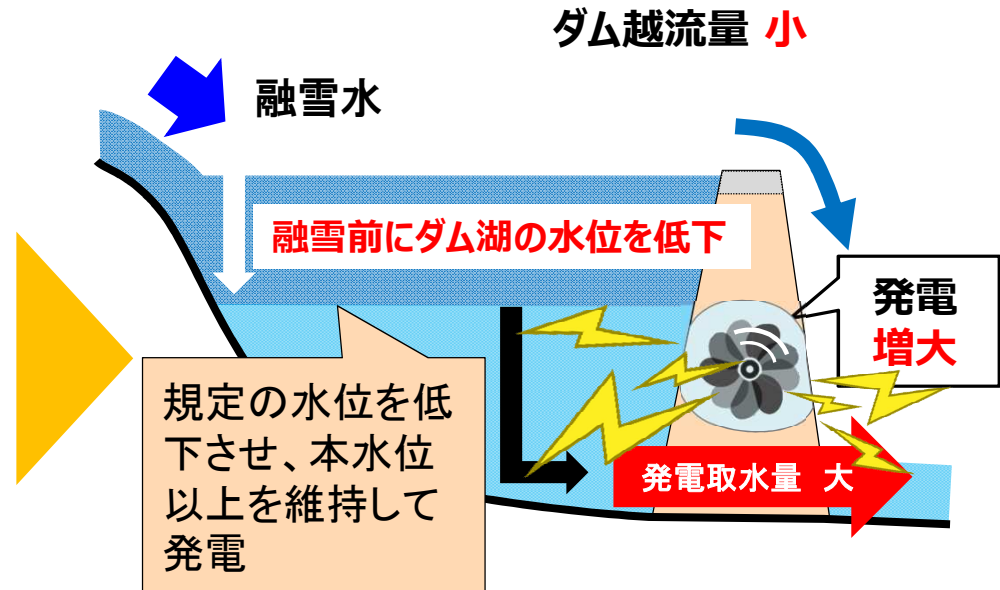


現状



- ・ 利水 (かんがい、水道、発電) のため 高い水位の維持が必要 (ルール)
- ・ 融雪水の 多くはダムを越流
- ・ 発電は規定の水位以上の水を活用

試行運用



- ・ 融雪水貯留のため 事前に水位低下
⇒ 水位低下させた分の貯留量増加により発電量増大
⇒ 下げた規定の水位以上の水位を維持して運用 (発電)
- ・ 融雪水の一部がダムに貯留され ダム越流量が低減